

ターゲット・バードゴルフ競技規則

【第1章】コース

第1条 競技は、日本ターゲット・バードゴルフ協会の公認コースで行う。

公認基準は、以下の通りとする。

	公認常設コース	仮設コース
ホール数	9ホールまたは18ホールを基準とする	常設コースに準ずる
ホール距離	①パー3 (ショートホール) 30m～45m未満 ②パー4 (ミドルホール) 45m～70m未満 ③パー5 (ロングホール) 70m～90m	①パー2 (ショートホール) 15m～30m未満 ②パー3 (ミドルホール) 30m～50m未満 ③パー4 (ロングホール) 50m～70m ※常設コースと同じ設定で良い
パー総数	9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする	9ホールのパー総数は27とし、その内訳は、パー2が2ホール、パー3が5ホール、パー4が2ホールとする
面積	9ホールにつき約7,000㎡とする	9ホールにつき約5,000㎡とする
ティーインググラウンド	台地状(3m四方)もしくは、周りのフェアウェイと区画線、柵等ではっきり区別をし、ティーマークを設置する。	3m四方を区画線又は柵等ではっきりと区別し、ティーマークを設置する
フェアウェイ	芝とする。幅は、6m以内とする	芝または土とする。幅は、6m以内とする
境界線	コースは、溝の中に砂を入れて区分するか煉瓦で区分するか、ロープを用いて明確に区分する	コースは、ロープで区分する。
バンカー/ウォーターハザード	9ホールにつきいずれか2種類以上設置することが望ましい	設置しなくてもよい
標識	危険防止のための注意書き及び距離の表示等プレーに必要な表示をする	常設コースと同じことが望ましい
公認指導者	9ホールにつき1名以上常駐	常設コースと同じことが望ましい
主な用途	日本TBG協会公認大会、講習会の開催	講習会、その他

【第2章】用 具

第2条 ボール

ボールは、ゴルフボール（球部）のようなものにバトミントンに似た羽根がついたものをボールとする。合成樹脂で、ボールと羽根のジョイントには、ビスを用いる。

全長105mm、ボールの直径約40mm、羽根の直径約65mm、重量30g以下とする。

羽根は飛距離を抑える働きをし、羽根に付いたヒレは方向性の安定と転がりを抑制している。ルールにおいてはボールの特殊性により、球部と羽根を区別することがある。

第3条 クラブ

日本TBG協会公認クラブ、又は、一般ゴルフ用ウェッジクラブ1本のみを用いる。クラブの改造は認められない。

公認大会は、原則として日本TBG協会公認クラブを使用する。

第4条 ショットマット

ゴルフ練習用ショットマットを使用するが、毛足の長さは一定で2cm以下でなければならない。競技会においては、センターに線が入っているものを使用しなければならない。

ショットマットを使用する時は、地面に平らに置かなければならないし、マットの裏側を使用してはならない。

ショットマットを改造してはならない（曲げたり、把手を付けるなど）。

図1 ショットマットのサイズ

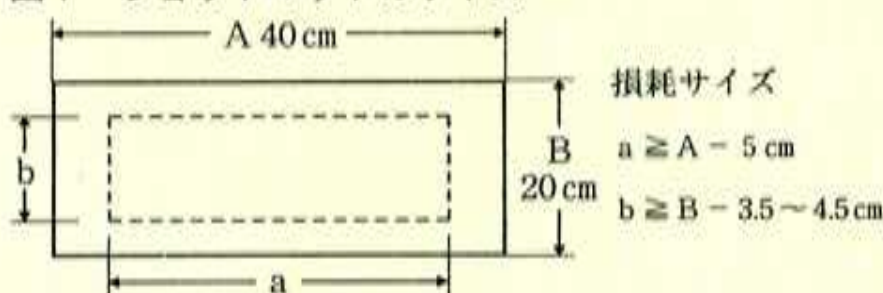
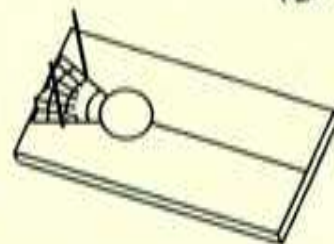


図2 ストッパーの例
(参考)



第5条 ホール

上部のホールをアドバンテージホール、下部のホールをセカンドホールと呼ぶ。アドバンテージホールは、パラソル（傘）を逆さに立てた形で、ステンレス棒にネットを張った固定式と傘のようにたためる折りたたみ式があり、直径が約110cmとする。セカンドホールは、合成樹脂のフープで直径が約86cm。

アドバンテージホールは、ステンレス棒にネットを張ったもので、先端を地面に打ち込んで使用する。地面に打ち込めない場合は、自立式のホール台座を使用する。セカンドホールは合成樹脂製のフープとする。

アドバンテージホールの設置は、差込棒を地面に打ち込むか、自立式のホール台座を使用するかがある。傾斜地では、地面よりアドバンテージホールのネットの底部から20cm、地面が平らなところでは、アドバンテージホールステンレスの棒のところから地面まで50cmとし、水平に設置する。

プレーヤーは、アドバンテージホール並びにセカンドホールに故意にふれてはならない。（ショットしたときにクラブがホールに触れた場合は、故意と認めない。）

図1 傾斜地するとき

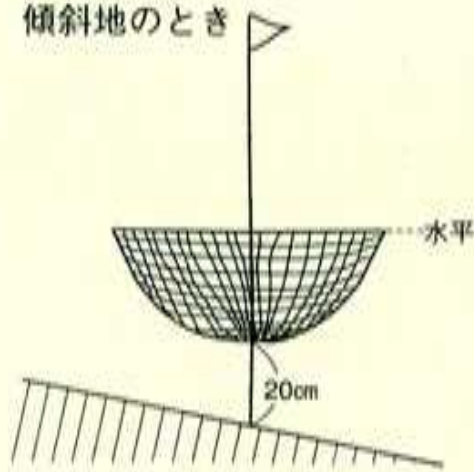
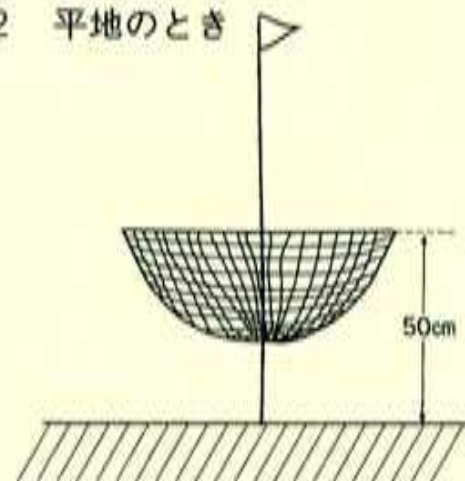


図2 平地するとき



日本TBG協会が公認したコース及び公認大会においては、固定式のアドバンテージホールが望ましい。

ホールは、日本TBG協会が公認したものを使用する。

【第3章】競技方法

第6条 人数

通常4人一組でプレーする。

第7条 競技の種類

1. ストロークプレー

- ①スクラッチ競技…グロススコアで順位を決める競技。
- ②ハンデキャップ競技…グロススコアからハンデキャップを引いたスコアで順位を決める競技。

2. マッチプレー

- ①各ホール毎に勝敗を決める。
- ②ハンデキャップを導入することもある。

3. ツーボールフォアサム

2人が組になり他の2人組と対抗する競技で、各サイドが1個のボールを交互にプレーする。ティーショットは1ホール毎に組んだプレーヤーと交替して打つ。また、ティーショットに限り、全員で打ち、各組の良い方のボールを選び、その後は交互にプレーする方法でも良い。

4. フォアボール

2人対2人が各自のボールをプレーして対抗し、各サイドのベストスコアによって勝敗を競う。

第8条 進め方

1. スタートホールでのティーショット（第1打）は、くじ引き、じゃんけん、コインのトス等によって順番を決める。
2. ボールがインプレーのときは、ホールから最も遠いボールを先にプレーしなければならない（遠球先打）。
3. 2ホール目以降のティーショットの順番は、前のホールで最も少ないスコアのプレーヤーからプレーし、以下順番にプレーする。
もし、前のホールで2人以上のプレーヤーが同じスコアであった

場合は、前のホールのティーショットの順番に従う。

4. プレーヤーが、プレーの順番をうっかり間違えてプレーしても罰はなくボールが止まっているところから次のプレーをする。

【第4章】競技規則

第9条 ストローク

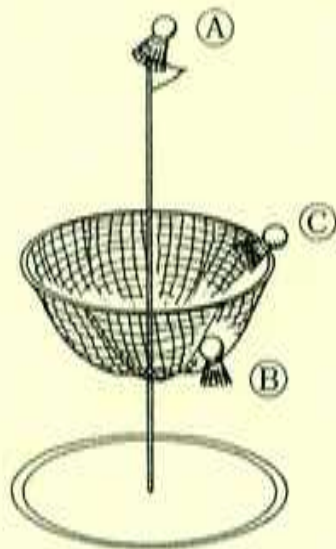
1. ボールを正しく打ち、またボールを打つ意志でクラブを前方に動かすことを、ストロークという。つまり、ボールを打つ意志でクラブを振れば空振りであっても1ストロークと数える。ただし、クラブヘッドがボールに触れる前に何かの理由で、スイングを中止したときは、ストロークを行わなかったものとみなす。
2. ボールは、クラブヘッドで正しく打たなければならない。押し出したり、かき寄せたり、あるいはすくい上げてはならない。以上の反則があったときそのストロークが1打、そして、2罰打が与えられ合計3打として数える。
3. プレーヤーのクラブが、1ストローク中に2回以上ボールに当たったとき（2度打ち）は、そのストロークが1打、そして1罰打が与えられ合計2打として数える。

第10条 ホールイン

1. ホールインとは、ボールの羽根を除く球部で決まる。
2. ホールインの判定は、ボールを真上から見下ろして行う。
3. アドバンテージホールは、ステンレスの枠内にボールが入るか、ステンレス製の枠に球状が触れていればホールインとする。
4. セカンドホールは、フープの上に球部が乗っていればホールインとみなすが、ストローク数に1打プラスとする。
5. アドバンテージホールの判定と処理
 - (1) 旗あるいは旗竿に引っ掛けていればホールインとみなす。Ⓐ
 - (2) ボールがアドバンテージホールの外側に引っかかったとき、球部がアドバンテージホール外で羽根がアドバンテージホール

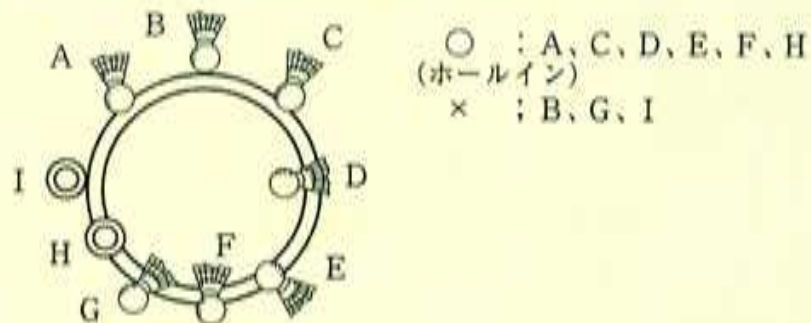
の内側にひっかかったとき、セカンドホールに入ったものとみなす。(B) (C)

図1



6. セカンドホールの判定の処理

図2

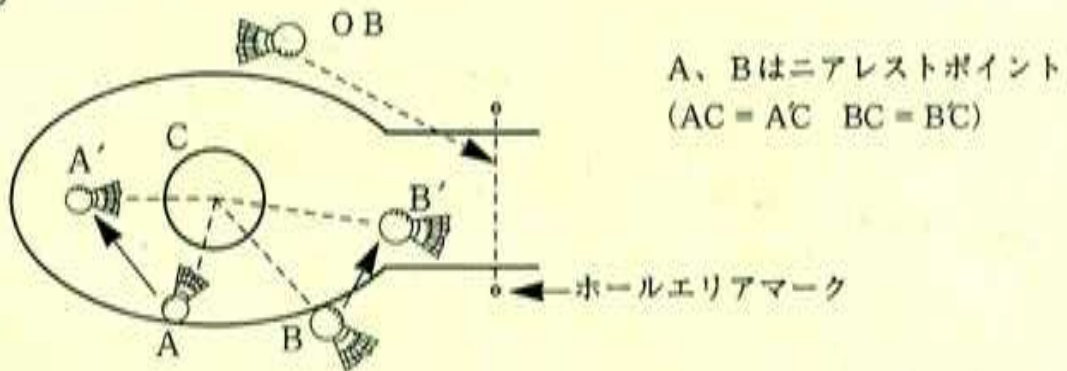


第11条 アウトオブバウンズ

1. アウト・オブ・バウンズ (OB) とは、プレーが禁止されている区域のことをいう。
2. OBの境界線は、常設コースの場合、溝または煉瓦・ロープで標示し、仮設コースの場合は、ロープで標示する。
3. 溝または煉瓦部分にボールの球部が入っている場合及びロープにボールの球部が少しでも触れている場合は、セーフとなる。
4. ホールエリアでのOBについては、すべてホールエリアマークの外側から打ち直す。(ホールエリアとアドバンテージホールの距離は、約5mが望ましい)

5. ホールエリア内のボールがOBラインに接した場合で、ブレースによりボールがOBライン外になるときは、ホールに近づくことなくショットマットをフェアウェイ内に置くことができる（ニアレストポイント）。

図 3



第12条 ボールがOBとなったときの処置

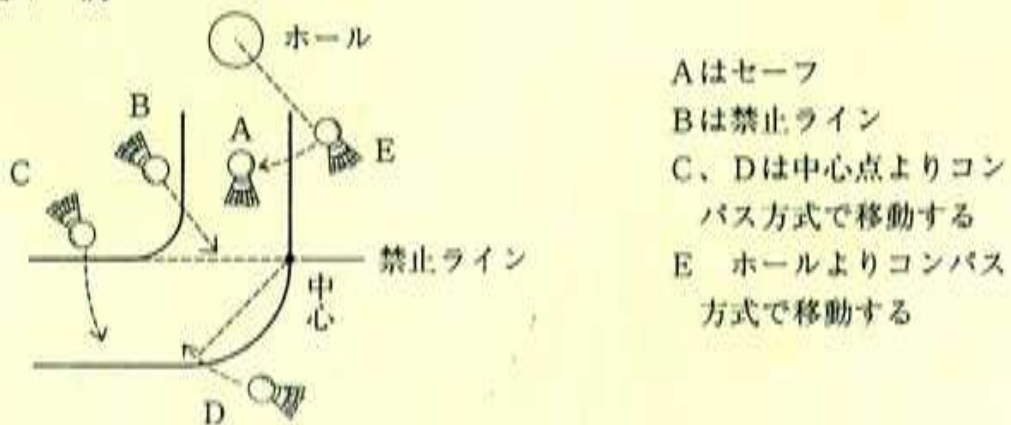
1. コンパス方式

ボールがOBになった場合、1罰打してホールに近寄らないコース内地点に戻し、次のストロークを行う。結果として、ホールを中心とした円周上のコース内地点に戻すことになる。

2. 特例

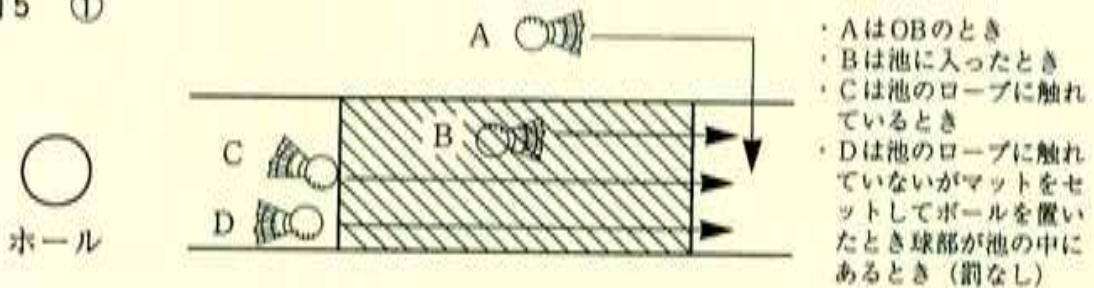
コースが極端なドッグレッグしているときは、コース状況を考慮してローカルルールを定めて競技することが望ましい。

図 4 例

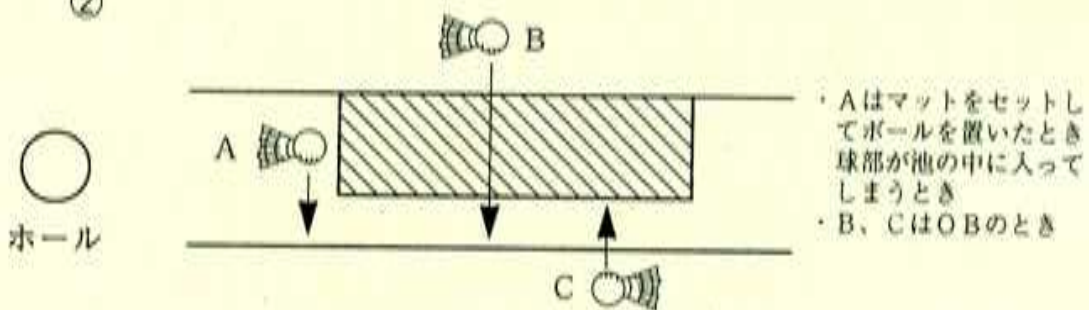


3. OBラインが煉瓦等危険さを伴う場合、ホールに近づかない範囲でコース内のニアレスポイントに入れてプレーすることができる。
4. ボールがプレーが出来ない池やハザードに入った場合、手前に戻って1罰打して次のプレーを行う。
5. 池のロープに触れているときは、池に入ったとみなす。

図5 ①



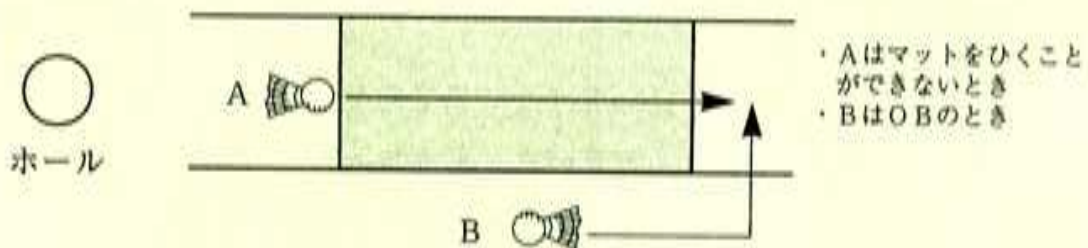
②

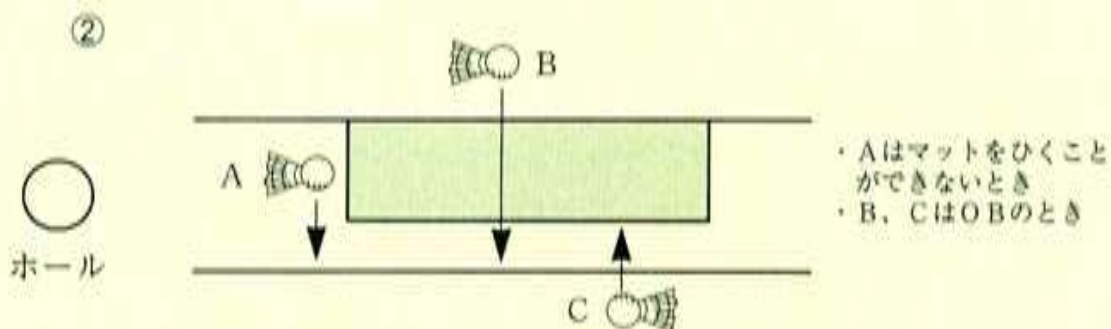


第13条 バンカー

1. バンカー内では、ショットマットは使用できない。
2. バンカー内でクラブを砂に接触させた場合、1罰打となる。
3. バンカー内のボールの向きを変える場合は、球部を中心にして羽根の向きのみを変える。

図6 ①





第14条 プレース

プレースとは、ボールを拾い上げて「別の地点」に置くことをいい、規定の方法に従えばペナルティーは無い。また、動物などにより、ボールが持ち去られるなどした場合、そのボールがあった地点に別のボールを置くことができ、これもプレースという。

下記の方法に従えば、自由にプレースすることができる。このとき羽根の向きを変えてプレースしてもかまわない。

1. 打つ方向に向けてボールの真後ろにしかもショットマットの中央がボールに接するようにショットマットを置く。
2. ボールを拾い上げる。但し、ボールを拾い上げてストロークが終わるまでショットマットを動かすことができない。
3. ショットマットの最前方にボールを置く。(羽根の部分も含む)
4. ホールに近寄らない「別の地点」におくことができる場合。

(1) ボールがOBラインに接した場合、プレースによりボールがOBライン外になるときは、ショットマットの中央線をフェアウェイ内に置くことができる(ニアレストポイント)。

(2) バンカー等の縁でボールが止まり、ボール直後にショットマットが置けない場合、後方にプレースできる。

第15条 リプレース

リプレースとは、拾い上げた、又は動かされたボールを「もとの地点」に戻して置くことをいう。ボールを識別するため、あるいは他のプレーヤーの妨げとなるなどの理由でリプレースすべきボールを拾い上げるときは、マーカーを使ってマークをしなければならな

い。但し、ボールを置くときは、もとの状態に戻す。

第16条 ホールアウト

1. アドバンテージホール及びセカンドホールにプレーヤー全員ボールを入れたことをホールアウトという。
2. プレーヤーはホールアウト後速やかにボールを拾い上げてホールエリアから離れなければならない。

第17条 誤球と誤記

1. 誤球したプレーヤーは、1 罰打でもとに戻って打たなければならない。
2. 誤球してホールアウトしてしまったプレーヤーは、2 罰打とする。
3. 提出されたスコアの誤記は、プレーヤー本人のみ失格とする。

【第5章】エチケットとマナー

1. プレーヤーは、ストロークを行う前に、クラブが当たる可能性のあるところに、人がいないことを確認しなければならない。
2. プレーヤーが、ストロークを行うときには、他の者は動いたり、大声で話したりしてはならない。また、ティーインググラウンドには、ティーショットする者以外は立ち入らない。
3. プレーヤーは前の組のプレーヤーがボールのとどく範囲外に進むまで、プレーしてはならない。
4. ホールアウト後ホールエリア内でプレーヤー同志スコアの確認・記入をしてはならない。
5. 使用するボールに印（マジックのみ）を付けておくと良い。各自のボールを色によって確認しておく。
6. 自分を有利にする行為はしない。
7. プレーヤー全員がホールアウト後、ボールを拾い上げることができる。
8. プレーヤーは、同伴競技者全員のショットが終わるまで前へ出てはならない。
9. ジャッジは、セルフジャッジが基本であるが、異義があるとき同伴者の同意を得るか、競技委員の裁定を仰ぐ。

ターゲット・バードゴルフ競技規則による罰打・失格一覧表

項 目	ブ レ ー 内 容
一 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティーショットの失敗によりボールがティーフラント上に残ったり、フェアウェイに届かなかった場合、ティースhotをやり直すとき。 2. プレーヤーのクラブが、1ストローク中に2回以上ボールに当たったとき（2度打ち）。 3. ボールがOBになったとき。 4. ボールが池及びハザードに入ったとき。 5. バンカー内でクラブを砂に接触させたとき。 6. 誤球したとき。 7. プレーヤー自身の打ったボールが身体もしくは自分の持ち物にボールが当たったとき。（ショットマットは除く） 8. コース内の樹木、植え込み等にボールが、引っかかり、入ってショット出来ないとき。（この場合は、ホールに近づかない所に、コンパス方式によりプレイをする。）
二 罰 打	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボールを押し出したり、かき寄せたり、すくい上げたとき。 2. 誤球をしてホールアウトしたとき。
失 格	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出したスコアが間違っていたとき。（本人のみ）

1988年6月17日	制定
1990年5月23日	改定
1992年4月1日	改定
1994年4月1日	改定
1995年5月1日	改定
2000年1月28日	改定
2006年5月31日	改定